

■9月10日

国交省、2020年オリンピック開催、羽田・成田空港の受け入れ強化検討

国交省は、2020年夏のオリンピックとパラリンピックが東京で開催されることで、今後、国際線の需要の増加が予想されるとして、近く、羽田空港と成田空港の機能強化に向けた検討組織を設置する方針を固めた。

日経によると、羽田と成田の「首都圏空港」の年間発着枠は現状で計68万回。14年度中に約75万回に増やすことが決まっているが、中長期的に足りない見通しだ。国交省は枠の拡大に向け、10月にも有識者で構成する検討会をつくる方針だ。需要予測を複数示し、具体策を検討する。羽田空港では需要の減った国内線の発着枠の一部を国際線用に振り替えたり、5本目の滑走路や新たなターミナルビルをつくったりする案が出ている。

飛行ルートの見直しも検討課題になる。東京上空の飛行を解禁する案も議論する可能性がある。地元自治体などとの調整の難しさや巨額の工事費がネックとなり、実現しなかったが、今回は五輪開催を追い風と期待する政府関係者は多い。

(NHKニュース)9/10

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130910/t10014415181000.html> (->

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130910/t10014415181000.html>)

(日経)9/10

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGC0900Z_Z00C13A9MM8000/?dg=1 (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGC0900Z_Z00C13A9MM8000/?dg=1)

AIRDO、女満別—仙台・釧路—静岡、チャーター便運航

AIRDOは10月末から11月初旬にかけ、女満別—仙台間と釧路—静岡間でチャーター便を運航する。座席はJTB北海道が買い取り、ツアー商品として販売する。同社は、昨年11月に帯広—長崎間で、国内チャーター便に参入し今回が第2段。日経が報じた。

使用機材はボーイング737—500型(126席)で、女満別—仙台線は11月1日に女満別を出発し、4日に仙台から戻る。釧路—静岡線は10月31日と11月2日にそれぞれ1往復する。

(日経)9/9

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFC0900Z_Z00C13A9L41000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFC0900Z_Z00C13A9L41000/)

ジェットスター(LCC)、関空—シンガポール線、11月1日から運休

ジェットスター航空は11月1日から、関空—シンガポール線を運休する。これは、ジェットスターが運航している関空—シンガポルーダーウィン線のうち、関空—シンガポール間の運航を取りやめる。

ジェットスター広報部によると、関空線の利用状況は悪くはなかったものの、シンガポルーオーストラリア間など東南アジアとオーストラリアとの間の需要が非常に高く、より需要が見込める地域に機材を回すことになったという。

(トラベルビジョン)9/9

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58804> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58804>)

(ジェットスター HP)

<http://www.jetstar.com/jp/ja/travel-alerts> (-> <http://www.jetstar.com/jp/ja/travel-alerts>)

フンヌ・エアー、バンコクへ第3国チャーター便を計画

モンゴルのフンヌ・エアーは2013年の年末から2014年の1月、2月にかけて、バンコクへの第3国チャーターを運航する計画だ。当初は香港とバンコクを予定していたが、バンコクの人気が高いことからバンコクに集中する考えで、地方発で8本程度を見込んでいる。トラベルビジョンが報じた。

同社は今年7月から9月にかけて、米子、那覇、中部、関空、静岡、福岡、広島、岡山、宮崎空港からイルクーツクとウランバートルに計9本のチャーターを実施し、ロードファクターは82%から83%で推移しており、静岡や広島はほぼ満席だったという。

(トラベルビジョン)9/9

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58761> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58761>)

カタール航空、ワンワールドに正式加盟

ワンワールド・アライアンスは9日、カタール航空が、2013年10月30日からワンワールド・アライアンスに正式に加盟すると発表した。同アライアンスにとって13社目の加盟航空会社となる。

ドーハを拠点とするカタール航空は、成田空港、関西空港のほか、ワンワールド・アライアンスの主要ハブ空港を含むアジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、中東地域の70カ国、130都市に就航している。また、現在はボーイング787型機を含む130機の航空機を保有し、2012年の輸送実績としては約1,700万人。

同社のワンワールド・アライアンスへの正式加盟により、ワンワールド・アライアンスのネットワークにエチオピア、イラン、ルワンダ、セルビア、タンザニアの5カ国、20都市以上が新たに加わることになる。

(JALプレスリリース)9/9

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201309/002630.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201309/002630.html>)

(ワンワールド・アライアンス HP)

<http://ja.oneworld.com/member-airlines/members-elect> (-> <http://ja.oneworld.com/member-airlines/members-elect>)